

Project of  
**THE UNDERGROUND NETWORK**  
地底之通信網 / ザ・アンダーグラウンド・ネットワーク 知識集

**最終版**

発行：空事屋

<http://soragotoya.wordpress.com>

# 序

この度は、この書を手にとっていただき、  
誠にありがとうございます。

本書は、著者が三年ほど前執筆しました  
「ザ・アンダーグラウンド・ネットワーク」  
に関する豆知識を、脳の記憶を頼り\*1に  
断片的ですが、そのまま掲載するものであります。

\*1 制作メモ等に使用していたデバイスが使用不可能

「こんな黒歴史小説が存在していたのか」  
と感じていただけると幸いです。  
制作した私でも、読もうとするだけで蕁麻疹が  
出るほどです。(笑)  
決していい気持ちになれるような書では  
ありませんが、是非。くおねかいます。なと  
思います。

# ザ・アンダーグラウンド・ネットワーク 本文

読んだことのない方向けに、本文を掲載します。

2020年 大学 放課後

はあ...今日も学校の中で何もない1日だったなあ....

友達早く誘ってくれないかなあ...

「よお！一緒に遊ぼうぜ！」

今日も変わらない友達だ。

「おう！何で遊ぶんだ？」

「今日はスペシャルな遊びだよ！「ダークネット」を探索するんだよ！」

脳内で？が思い浮かんだ。

「ダークネットって？」

「自分でも知らないけど、ダークネットでは、いろいろな情報が隠されているらしいんだ。」

「へえ。自分でも知らんけどやってみるか。」

「お前は天才だから大丈夫だろ！」

と話しているうちに家に着く。

「今日もお前ん家に泊まっていい？」

「いいよ！」

「じゃあパソコン持ってきてくれ。」

「おう！」

自分はGMAX 2660 CORという世界最強のCPUを持っているから、ウェブにアクセスするだけで爆速だ。

「持ってきたぞー」

「ありがとな！じゃあDARK NET Expressをインストールして！

そしたらダークネットにアクセスすることができるぞ！」

「いいよー」数秒後...

「やはりお前のパソコン爆速だなw」

「ダークネットエクスプレスホーム...「ダークネット、最恐サイト」で検索っと！」

「おい！勝手に検索すんなよ！！！」

「仕方ねえから俺が対処してやるよ。ダークネットリスト.com...うわ！開いたらいろんなサイト貼ってある...  
このサイト開いてみるか。」

「押しちゃえ！もしやばいことになったら俺がついてる！」

カチ...

「Now loading？」

「うわ！このサイトは..!!!」

「よお。なんで友達の言うことにここまで正直になってここまでアクセスしてしまうんだ？」

お前らも知ってるだろう。俺の名前は...美也 学。」

「なんでお前はここまでのするのだ？」

友達に命令されたらすぐに行動する派なのか？お前はロボット同然だな。」

「そこまで言わなくても..」

「なんだ？お前がこの奴に命令したくせになぜそう言う？教えてやろう。

俺は、世界中のすべての情報を知っている。お前の、学校の行動などな。」

「なんでアングラネットにそのような情報を流す！そんな情報必要か？」

「もう一つ教えてやろう。この世は需要と供給で生きている。そのようなものの需要が在れば供給する。それだけさ。さらばだ」

「ええ！？パソコンの電源が切れた！」

「なんだよー。もっと面白いことしようと思ったのに。」

The Underground Network 1 終わり。

**次のページが最終話です。  
見てて不愉快に感じた方はページを  
飛ばしてください。**

# ザ・アンダーグラウンド・ネットワーク2 本文

不愉快に感じた方は、ページを再度飛ばすことをお勧めします。

「なんだよー。もっと面白いことしようと思ったのに。」

「何したかったん？」

「うん。ある程度の精神をブレイクさせることだよ、お楽しみってやつ」

「わかった。じゃあ協力するわ。仮想ネットワークを使ってアクセスするか。」

「/expect:mact[hanter-vpm]・・・\_jpnvpn.1000/china\ うん。これで中国に接続できたよ。」

「流石！」

「うん。miyamanabvideochat.gbacs と。」

「つながった！」

「またお前か。お前は何かしたいんだ？供給を邪魔して何が楽しい。」

「なんでお前が供給するんだ。そうしたらお前が犠牲になるだろ。」

「お前に一つカミングアウトしてやる。お前のとなりに友達がいるだろう。」

そいつに俺は命令されているんだ。よく今まで気づかなかったな。

あいつは、中国国籍だ。日本語を必死に勉強して今ここに立っている。

彼の名は....リ・チャン。」

「おいそれを言うな」

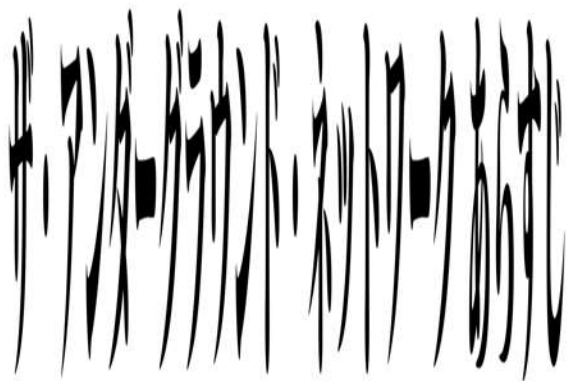
「俺はもう命令されるのはやめた。お前は一人で悪側になれ。」

「あシャットダウンした」

「絶交な。お前がそんな人だと思わなかったわ」

「ばれてしまったか。こうなりや、戦争だ。」

「逃げろ...!!!」 The Under Ground Network 2 終わり。



「俺の名前は、琴水 雫（ことのみずしずく）。  
友達があんまり居ない陰キャだ。  
いつも、俺は教室の隅っこで本を読んでいる。  
それが教室の中の唯一の娯楽だからだ。  
放課後に友達が遊びに誘ってくるのを、  
本を読みながら待っている。  
今日も放課後に遊びに誘ってきた。  
今日の友達の一言により、  
自分の人生が覆されるのだった。」

## キャラクター・1

### 琴水 雫

自己肯定感が低く、慎重に決めることができない大学生。  
大学生とは思えないほどの精神年齢、  
かつ、稚拙な言葉遣いが特徴。  
性別不詳。

## キャラクター・2

### リ・チャン

琴水 雫の友達のポジション。  
中国国籍だが、なぜか日本に滞在。  
キチガイな琴水を、ダークウェブに誘い出した張本人。  
性別不詳。

## キャラクター・3

### 美也 学

ダークウェブの住人。  
なぜだかり・チャンを知っている。  
名前的におそらく日本国籍。  
性別不詳。

## 2. 没案：マンガ版製作

ザ・アンダーグラウンド・ネットワークのマンガ版を製作するといった愚行を重ねようとしたという事実があります。未遂に終わりましたが、本の表紙も制作していましたが、企画破棄の際共に捨て去ってしまいました。  
(破棄:2025年1月)

## 3. 没案：アニメ版製作

アニメーション自主制作の一環として、アニメ版を製作しようともしていました。キャラクターデザイン、新規キャラクター案は全て企画破棄の際に抹消されました。  
(破棄：2025年1月)



4. なぜ、THE UNDERGROUND NETWORKを作ったのか？

当時いたコミュニティーの人間が、  
小説を書いていたことに憧れたのか  
黒歴史になることを覚悟しながら  
執筆しました。

ほとんど気の迷いのようなものです。  
そのため、まったく脳のリソースを割いていない  
本作は、支離滅裂な言動などが多めなのです。

5. なぜ、第貳話が最終話なのか？

投稿していたPixivのアカウントにログイン  
できなくなったのが大きな要因です。  
全然アイデアが浮かばなくなったという  
もありますけどね。

続編や第参話の制作予定はありません。



以上

発行  
空事屋

編集

akizawa.chiune@gmail.com

無断的転載を認可

**Project of**  
**THE UNDERGROUND NETWORK**  
地底之通信網 / ザ・アンダーグラウンド・ネットワーク 知識集

2025/09/14 編

<http://soragotoya.wordpress.com>